

天ヶ瀬断層群と天ヶ瀬ダム近傍の活断層について

宇治市防災を考える市民の会
紺谷吉弘

1 天ヶ瀬ダム周辺にはF-O断層以外に多くの断層群が存在している。ダム右岸の断層群はダムの応力方向と平行である。これらの断層群の一部はダム右岸の地山の崩落を引き起こしている。

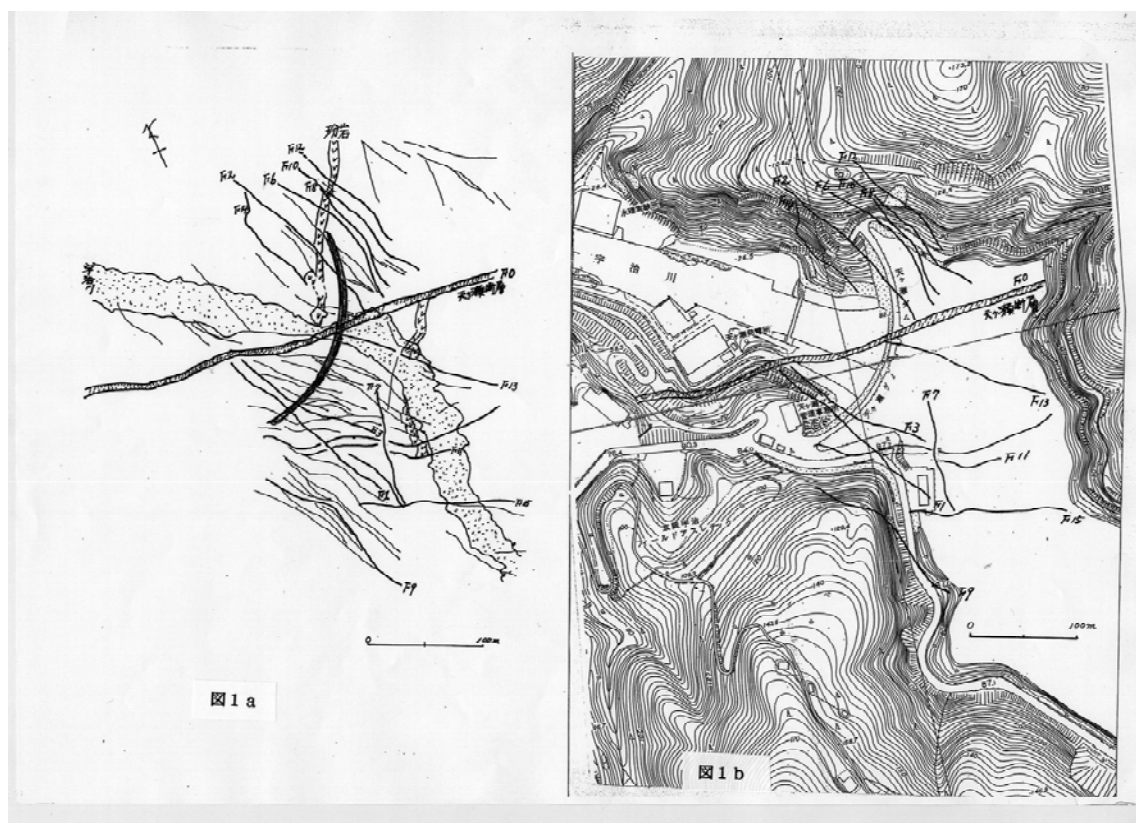


図1 天ヶ瀬断層群

1 a : 『天ヶ瀬ダム地質誌』を一部修正

1 b : 1 a の図を地形図に重ねたもの

2 7月3日に天ヶ瀬ダム管理事務所で行われた地質説明会において、説明者は「天ヶ瀬ダムより半径3km以内に活断層は無い」と断言した。しかし、ダムより2kmの菟道地域に於いて、すでに活断層が2本みつかっており(写真1, 2)、今回新たにダム直近の場でE-W方向の活断層が見つかった(図2)。この断層はF-O断層と平行であり、F-O断層と活動時期が同じである可能性がある。



写真1 明星団地周辺の大坂層群を切る活断層露頭
走向・傾斜は EW、ほぼ直立



写真2 菟道地域における活断層
走向・傾斜は、N10E、70W、大坂層群と段丘礫層を切る



写真3 天ヶ瀬ダムの北 400m の活断層
大阪層群の段丘礫層と基盤の丹波層群が断層で接する。
走向・傾斜は、EW、70N、

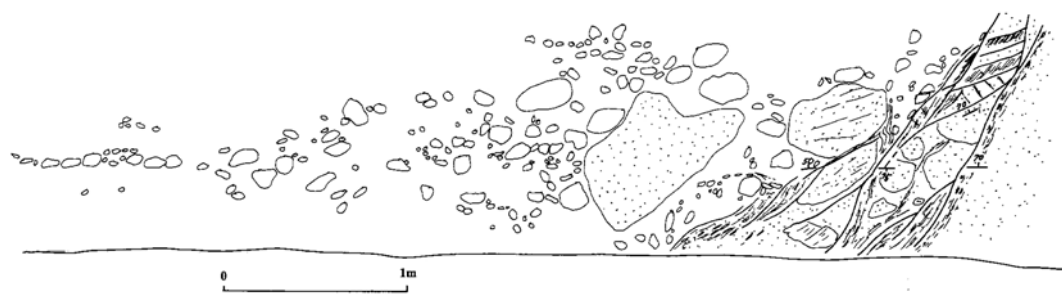


図2 上の写真の範囲から更に右 3 m を含んだスケッチ、断層付近の礫層の乱れがわかる。

3 7月3日の説明会で、説明者は、F-0断層の延長を天ヶ瀬吊り橋上流とした。この

方向であれば、F-O断層は黄檗断層群に含まれる可能性がでてくる。

4 天ヶ瀬ダム周辺地域は断層密集地域である。活断層露頭がすでに3箇所見つかっている。国交省は「ダムから3km以内に活断層はない」と断言したことを取り消し、天ヶ瀬断層群に関するデータを公表せよ。そして、天ヶ瀬ダムの安全性を真摯に検討すべきである。